

『第57回治山研究発表会及び第55回治山シンポジウム』に参加しました

計画保全部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会及び治山シンポジウムが平成29年9月20日〜21日に東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで各森林管理局、地方公共団体、大学、民間事業者等の参加のもと開催されました。

【治山研究発表会】

1日目は、発表会に先立ち、コマツスマートコンストラクション推進本部副本部長小野寺昭則氏より「建機メーカーが描くICT建機施工を中心とした建設現場の未来」（スマートコンストラクションの導入）と題して、特別講演が行われました。現在の土木施工現場の多くは工事着手から完成までが複雑な工程で、人

手が多くかかること、建設機械が操作者の技量に左右され、正確な現況把握が難しいという問題点がある中で、ICTを搭載した建設機械を導入し、工事の最初から最後まで工事に関わるすべての人、建機、土までも、有機的につなげることで、着手から最短で最少人員で安全に正確に工事完成させる最先端の技術が紹介され、併せて実際の治山工事（法面の整形等）への展開の紹介もありました。※ICTとは「情報伝達技術」のこと。

発表会では、1山地災害調査と復旧対策等の取組、2森林造成・整備等の取組、3施設的设计・施工や木材利用等の取組、4保安林・林地開発許可制度の効果的な運用等の4つのセクションで、48課題が発表されました。

関東森林管理局からは、千葉森林管理事務所業務グループの佐古瑠子技官と（株）森林テクニクス前橋支店の宮澤陽一氏及び土井惇史氏が「山地災害調査と復旧対策等の取組」のセクションで、「砂質土地帯における補強土壁工による崩壊地復旧対策」を発表しました。

平成27年8月26日、君津市において最大時間雨量32mmを観測するなど、千葉県南部を中心に発生した集中豪雨により、富津市不動谷国有林（観光施設マザー牧

場隣接地）で発生した山腹崩壊とそれに伴う既往治山施設の被害に対する復旧対策を紹介したものです。

被災地の復旧に当たっては、現地の土質等の地況や周辺環境等の条件を踏まえ、補強土壁工等を採用しましたが、これまでに治山施設として補強土壁工を採用した実績が僅少であったことから、本工種を採用するに至った経緯及び施工後の考察について紹介しました。



山腹崩壊と治山施設の被災状況

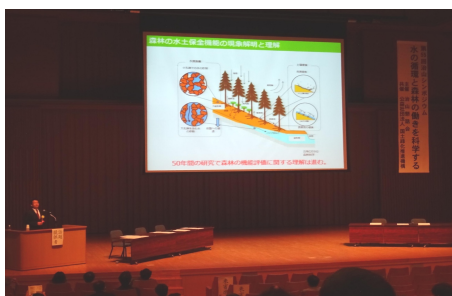


復旧工事完成後

【治山シンポジウム】

2日目は「水と循環と森林の働きを科する」をテーマに、治山シンポジウムが開催されました。

東京農工大学大学院国際環境農学専攻、五味高志教授から「森をとりまく課題の変化と水土保全機能の評価」、森林総合研究所玉井幸治森林防災研究領域長から「森林における水移動研究と今後の課題」、北海道立総合研究機構林業試験場 長坂晶子研究主幹から「森と川と海をつなぐ」と題して話題提供があった後、鈴木雅一東京大学名誉教授を座長に、有識者及びパネリストにより森林の働きと水の循環について活発な討論が行われました。



2日目「治山シンポジウム」の状況



ツタウルシ(篤漆) つる性の樹木。秋になると真っ先に紅葉する。触るとかぶれるので注意。



センター来場者へ森林教室

【森林教室・パネル展示等】
期間中、センター庁舎1階の展示室において、「いのちの森高尾山



高尾森林ふれあい推進センターでは、今年も「山の日」記念の各種イベントを8月7日から19日の間、高尾山エリアで実施しました。



親子連れに大好評だったクラフト体験

【クラフト体験】
8月11日から13日の3連休は「まなぶ あそぶ つくる」をテーマに高尾599ミュージアムの主催で、「山の日記念TAKAO599祭 山の学校」が開催されました。

センターでもこれに併せて、8月7日から13日の期間限定で小学生以下の児童を対象に「夏休み特別クラ

(DVD)」等を活用した森林教室を、センター職員が補足説明を行いながら実施しました。
また、様々な樹種の木目・肌目・樹皮等を観察してもらったための標本等の展示、森林ふれあいイベントについての情報発信、森林の働きを紹介するパネル展示等を行いました。

フト体験教室」を開催しました。
連日、家族連れで満員御礼・大好評でした。子どもたちは、指導にあたったセンター職員に木の実の名前や工作のコツを教えてもらいながら、楽しそうにそれぞれ工夫して、夏休みの工作宿題や自分だけの作品を作り上げていました。

【まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦】

昨年引き続き、今年も国民の祝日「山の日」制定記念イベントとして、高尾の自然を親しみながらボランティアで登山道のゴミを拾う「まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦」を8月11日に、森林インストラクター東京会と連携して実施しました。

当日の朝は小雨模様でしたが、開会式が終わる頃には雨も上がり、参加者総勢125名が4班に分かれ、4か所の登山口から一斉にスタート。予定通り全員無事に山頂に到着。昼食後、全員で記念写真撮影。4つのコースとも、ゴミの持ち帰り運動が浸透しており、全体にゴミの量は少なかったものの、ペットボトル、缶、ビン、紙ごみ等 45Lの袋を1袋と25Lの袋を3袋回収しました。一人の脱落者やけが等もなく予定通りセンター前に到着し、閉会式を全員集合で実施し解散しました。



まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦

【高尾山自然体験教室】

8月12日と13日に、裏高尾の日影沢キャンプ場等において、NPO法人「森とでんえん倶楽部」と連携して、夏休み高尾山自然体験教室を実施しました。

夏休み中に行うこのイベントは毎年参加希望者が多く、今年も天候不順にも関わらず73名の参加がありました。高尾山の素晴らしい環境の中で、お父さんお母さん、家族一緒に「高尾山の植物観察、生き物探し、昆虫観察、草笛体験、小川での魚取り、スイカ割り、ドングリで作ったカブト虫・クワガタの相撲大会」等を行いました。

【子ども樹木博士と丸太切り】
 8月19日は、日影沢キャンプ場周
 辺で「子ども樹木博士と丸太切り」
 を開催しました。8月に入ってから
 ぐずついた天気が続いていましたが、
 当日は久しぶりに太陽の光を感じる

魚取りは、キャンプ場に隣接する
 川に鱒を放して、子ども達に手づか
 みしてもらいました。焼いて食べる
 時、「魚を殺さないで！」と泣き出
 す子もいましたが、自分で取った魚
 を食べると美味しいと、にっこりし
 ていました。
 参加した都会の子どもたちは高尾
 山の大自然の中で、森林インストラ
 クターと一緒に森林散策や川遊びを
 楽しんでいました。



夏休み高尾自然体験教室の参加者



「子ども樹木博士」試験・・・難しいな？

ことが出来ました。
 親子で樹木の名前を覚えて森に親
 しんでいただく企画で、小学3年生
 から中学1年生まで幅広い年齢層の
 子どもたちが参加してくれました。
 午前中、森を散策しながら樹木の
 名前を勉強し、昼食を挟んで試験で
 す。出題は20問で、全問正解すると
 2段の称号が与えられます。試験結
 果を待つ間は丸太切り体験です。ヒ
 ノキの切り口からいい香りが漂って
 くと、「なんかいい香りがするね」
 「お風呂に入れたらいいかも？」な
 ど、様々な声が聞こえてきました。
 そして採点が終わり、いよいよ結
 果発表です。苦戦した人、満点だっ
 た人と成績は様々でしたが、全員が
 「森に親しむ」一日を満喫して無事
 に終了することができました。

きのこ特集

秋に発生するきのこ

ツキヨタケ(毒)

(キシメジ科 ツキヨタケ属)

九月下旬から十月中旬に広葉樹
 主にブナの倒木や立ち枯れ木に群
 生します。

カサは7cmから15cm位で黒褐色
 から暗紫褐色です。

ヒダは白色で暗い所では青緑色
 に光ります。やや疎でひだが柄に
 沿って垂れ下がる垂生です。柄は
 短く上部にリング状のツバがあり
 ます。

食用のシイタケやムキタケに似
 ており、間違えて採取する可能性
 があるので、注意が必要です。



今月の表紙

「野反自然休養林の

シラネアオイ復元植栽」

林野庁は、特に優れた自然景観を有
 する国有林を「日本美しの森 お薦め
 国有林」に選定しています。

その一つ、群馬県吾妻郡中之条町の
 野反自然休養林では、9月22日、シラ
 ネアオイ群落の復元植栽及び保護活動
 が、地元の方(くに)中学校生徒、一
 般ボランティアの方々及び吾妻森林管
 理署職員約70名の参加のもと行われま
 した。

この活動は、かつて咲き誇っていた
 群落を復元するため平成8年から毎年
 行われているもので、これまでに約9
 万本が植栽されています。

当日は爽やかな空気の中、シラネア
 オイ約1000本を植栽しました。毎
 年、5月中旬から6月中旬にかけてシ
 ラネアオイが一面に咲き誇り、多くの
 来訪者を魅了します。



森づくり最前線

茨城森林管理署 花園森林事務所 森林官 永野 みちる

管内の森林は、それぞれの森林ごとの特質に応じて、ゾーニングして管理経営を行っており、管内の森林は自然維持林や森林空間利用林が多くなっています。

例えば、自然維持林の広葉樹天然林では、「森づくり」の手法の一つ



小川ブナ植物群落保護林

茨城森林管理署は、茨城県全域の45000haの国有林を管理しており、13の森林事務所があります。私が勤務している花園森林事務所は茨城県北茨城市にあります。福島県との県境、阿武隈山地南縁部の多賀山地にあたる、3000haの国有林を管理しています。管理面積の半分以上は花園花貫県立自然公園に指定されており、県境の小川地区には、ブナやシラカバの植物群落保護林が行っており、森林総合研究所などが自然調査を行っています。

管内の国有林には、おすすめの箇所が点在しており、年間通して登山、溪流釣り、写真撮りなど地元・県外から多くの方が訪れます。栄蔵室(882m)や花園山(798m)、和尚山(804m)などは、半日あれば十分回れる、初心者も歩きやすいルートで、人気のハイキングコースとなっています。



亀谷地湿原のミズバショウ

管内の国有林には、おすすめの箇所が点在しており、年間通して登山、溪流釣り、写真撮りなど地元・県外から多くの方が訪れます。栄蔵室(882m)や花園山(798m)、和尚山(804m)などは、半日あれば十分回れる、初心者も歩きやすいルートで、人気のハイキングコースとなっています。

今後、貴重な自然環境を適切に保存しつつ、計画的かつ効率的な森林整備

人工林では間伐などの森林整備を行っており、国有林内の県道は、木材を運搬するトラックが走っています。傾斜が急で道幅が狭く、運転には注意が必要ですが、特に冬になると路面が凍結し地域から「安全に行するため周囲の木を伐採してほしい」と要望がありました。通行の支障となっている木を、間伐作業にあわせて伐採したところ、「スクールバスが安全に通行できるようになった」と大変喜ばれました。



花園神社

神社は、県の天然記念物に指定されている御神木のコウヤマキ(樹齢600年)や三本スギ(樹齢500年)など、幹回りが4m以上もある樹木が立ち並んでおり、厳かな雰囲気になっています。



カラマツ(唐松)
樹高20m以上。名前の割に日本固有種。秋になると黄金色に紅葉し、落葉する。

※永野森林官は、10月1日付け人事異動で、当署、高部森林事務所に異動になりました。



見通しの良くなった県道27号線

発行所 関東森林管理局
編集総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1363